



あすなろ

有田市立保田小学校 校長室便り

令和 7 年 7 月 18 日 発行

第 8 号

(文責 校長)

♪「かわいい子には旅をさせよ」

「ヘリコプターペアレント」という言葉をご存じでしょうか？アメリカで生まれた言葉なのですが、子どものことを心配するあまり、子どもが失敗したり、間違ったりしないよう、先回りして子どもを手伝ったり、アドバイスする親のことなのだそうです。子どもへの愛情があるからこそ、「子どもを不安にしたくない」「子どもに傷ついて欲しくない」という思いから、失敗や困難などを、できる限り先回りして、取り除こうとしてしまうのだそうです。



勿論、その気持ちは分かるのですが、人は自ら経験と失敗を重ねることで成長します。経験のないものに挑戦し、何度も失敗を積み重ね、学んでいくことでしか人は成長しません。

しかし、子どもが失敗したり間違えたりしないように、先回りして手伝ったりして、失敗や困難を取り除くと、子どもは失敗する経験をしないまま大きくなっていきます。そうすると、子どもの成長の機会をうばってしまうことにつながります。

つまり、失敗や間違いの経験が少ない子は、幼い頃に経験すべき問題や失敗を経験していないことで、問題が起こったときの対処が自分ではできない子に育つ可能性があるのです。

また、「危ないからダメ」と過度に制限をされたり「そんなやり方をしたら失敗するからこうしなさい」など、自分の考えを否定されたりすることが多くなると、子どもは、自分は信頼されていないと感じたりして、自己肯定感の低い子に育ってしまう可能性があります。

さらには、自分では何も決められない子になったり、ネガティブな思考の傾向が高くなったりしてしまいます。

そんな子には育て欲しくない…誰もが思います。だとするなら、私たち大人がしなければならぬことは1つです。「かわいい子には旅をさせよ」…。多少間違っても、失敗してもいい、子どもが自分でチャレンジできるように励まして、後押ししてやることです。

(勿論、そのチャレンジは、自分も他人も傷つけない、迷惑を掛けないことは大前提ですが…)

そして、チャレンジした結果、成功したなら、一緒に喜んでやる。失敗したなら、よく頑張ったことを褒め、「どうしたらいいんやろね？」と考えさせる。

そうすると、子どもは安心してチャレンジできるようになります。大切なのは、間違ったり失敗したりすることを見守り、それに付き合ってやることです。

子どもを見守り、子どもに付き合うと、子どもが何を頑張ろうとしているのかが見えてきます。そうすると子どもへの声のかけ方が変わってきます。子どもは自分が頑張っていることが分かってもらえたことを実感すると、自分への自信と周囲への信頼が高まります。

夏休みはお家での生活が中心となります。是非子ども達のチャレンジを応援してやって下さい。そうすると、きっと子ども達は、身も心もぐんと成長すると思います。休み明けには、少したくましくなった子ども達と再会できることを楽しみにしております。

